PICKIN' SINGIN' GINZA
Rocky Top かわら版 第85号
ロッキーのHP→www.asahi-net.or.jp/~sd5h-mksm/rockytop12.html
2004.6.2 発刊

Yeah!マネージャー No44
大キシコ風野菜いため試食事件
作 チーフ井上

かつてスタンレー丸山が厨房修業していた頃の話である。香辛料を効かせたメキシコ風野菜いためを作らせていた。

何が合格なのかよく分からないまま ひたうら笑いをこらえるスタンレー丸山だった…

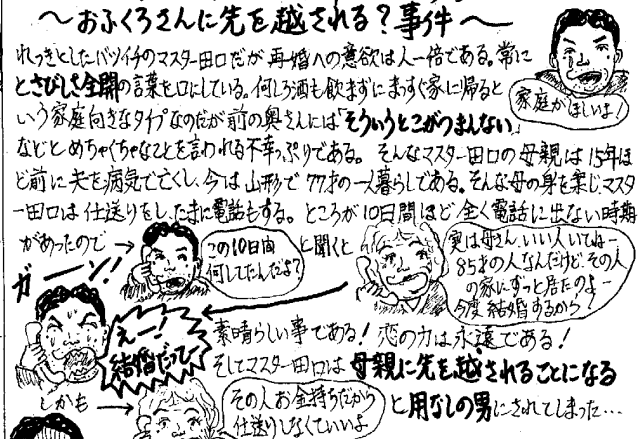
拝啓 June

5月はなんだか めちゃくちゃ暑かったり 寒くてヒーターつけちゃったり 気温の変動についていくのが大変でしたね。そして6月。今年の梅雨は空梅雨という噂も。アメリカが変なことばかりするから地球が怒ってんじゃないのか？アメリカの音楽は最高だけどね。

RockyTopホームページ→www.glasscom.com/rockytop/

マスター田口の不幸デラックス！
～おふくろさんに先を越される？事件～

れっきとしたバツイチのマスター田口だが再婚への意欲は人一倍である。常にとさびしい全開の言葉を口にしている。何しろ酒も飲まずにまっすぐ家に帰るという家庭向きなタイプなのだが前の奥さんには「そういうところがつまらない」などとめちゃくちゃなことを言われる不幸ぶりである。そんなマスター田口の母親は15年ほど前に夫を病気でさくし、今は山形で77才の一人暮らしである。そんな母の身を案じマスター田口は仕送りをしたまに電話もする。ところが10日間ほど全く電話に出ない時期があったので



そしてマスター田口は母親に先を越されることになると用なしの男にされてしまった…と衝撃の色を隠せない様子だ。ところが…ところが…後日談があり、この縁談は帳消しになってしまったとのことである…とても切ないです。その分マスター田口が頑張って幸せになるしかない！あーそれにしてもデラックス…

チーフ井上 北朝鮮CD発表！

2000年8月ピースボートの企画で北朝鮮を旅した僕です。しかも往復「万景峰号」で。あの頃はこの船台が今ほど悪名高くなるとは思ってもいなかった…もともと沖縄の基地反対コンサートが発端で「北朝鮮の脅威があるから基地が必要」という意見に「行ったこともないのにそう言うな」と反論したところ「おまえもだろ!」と言われ「そうか、じゃあ行くよ!」なんて言った2年後にチャンスが来たのだが、実際行ってみて北朝鮮の人達と触れ合ってみると、イメージとは違うことがたくさんありました。彼等はそりゃ同じ人間です。幸福になりたくて歌が大好きでお酒も好き。冗談も好き。そして何とも素朴で礼儀正しく、まっすぐな人達でした。**日本人が失ってしまった何かを持っている**ような気がしました。

そして別れの笠山港ではもう2度と会えないのでは…という思いの中お互い涙を流して別れも惜しみました。その時**友情はなんて素晴らしいだろう！なぜこんな素晴らしい人達を世間は悪く言うんだろう？**と思い、万景峰号上ですぐ書き上げた曲「アンヨンハセヨ カムサハムニダ」がようやくCDになりました。決して北朝鮮の政治体系を賛美してるものではありません。ロッキーにCD置いてますので興味ある方買って聴いてみて下さい。

「明日はきっと晴れ」とのカップリング2曲入りCD（税込¥1000）です。

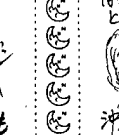
ライブもあります。

6/22(火)ロッキートップにて チーフ井上とフォークグリラボーイズ と チーフ井上ソロライブ

6/30(水)高円寺 稲生座（TEL 03-3336-4480）

スタンレー丸山 沖縄音楽に目覚める？

ある日恥ずかしそうな顔でスタンレーが「おまえもついに沖縄音楽にはまってきたか？」と聞いてくるので「おまえチーフ！なみだソーソーのコードってなんですか？」と聞くと



と声をつまらせた。どうやら好きな女のために弾いてあげるらしい。下心のみの沖縄だが「三線を購入する」という噂話も入っていて、聞いてみると「ちょっと弾けたらかっこいいじゃないですか」ということだ。どこまでもかっこ重視の男である…

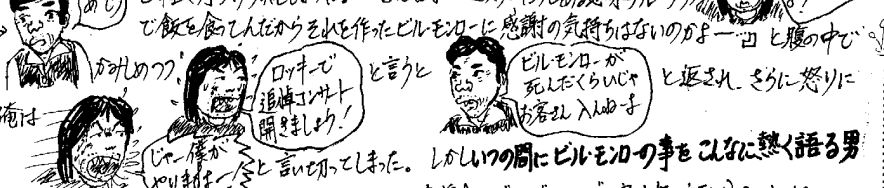
Andy VanDyke at ロッキートップ!!
（アンディ・ヴァン・ダイク）

6/16(土)来日公演の最終日 ニューロッキートップに登場します。テキサス州オースティンを拠点に活動するルーツロックバンド「レインレインズ」のシンガーソングライターです。CDを聴きましたがブルース・スプリングスティーンをはじめとする骨太で、かつバカ地良いロックの王道を感じさせます。まさに本場の音です。この日はアコースティックで渋くアメリカのルーツロックの香り漂うライブになることでしょう。是非いらしてください。予約受付中。前売り¥3300、当日¥3500です。

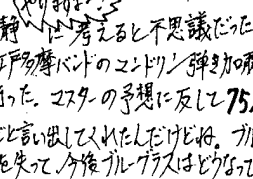
どこへ行くブルーグラス⑬

…わたくしチーフ井上がロッキートップに入り、ブルーグラスと出会ってからの思い出をたどりながら、今後ブルーグラスがどこへ行くのかを考察するコーナーです。

ビル・モンローの死→1995年9月13日、ブルーグラスの父と言われるビル・モンローが死んだ。享年85才だった。**「ビル・モンローは神様だから死なない」**なんて誰かが言ってたが、やはりあの人も人間だった。当時ロッキーで働いていた現ゴールデンハート（ロッキーの隣の店）のママまどかちゃんから聞かされたのがショックだったな。何しろブルーグラスをマンドリンを始めてわずか3年後の出来事だ。しかも自分にとって**ブルーグラスに目覚めるきっかけ**を作ってくれた人であり、最高のアイドルだった。しかも！**一度も本人の演奏をこの目で見ないうちに死んでしまった**…ロッキーに出勤してきた当時のマスター小柳さんに



と言うと軽く片づけられてしまった。『なんだよ…マスターだってある意味ブルーグラスで飯を食ってんだからそれを作ったビルモンローに感謝の気持ちはないのかよー』と腹の中で燃えた俺は



しかしいつの間にビル・モンローの事をこんなに熱く語る男になったんだろう…と冷静に考えると不思議だった。3年前までブルーグラスのブの字も知らなかったのにね…

そして現ジョデラルストア大江戸多摩バンドのコンドリン弾き加藤さんに協力してもらい、ちらしを作り、口コミで宣伝しまくって、11月に追悼コンサートを行った。マスターの予想に反して**75人の動員**だった。もっともマスターも本気の俺にあせったのか途中から

などと言い出してくれたんだけどね。ブルーグラスを築き上げ、ほとんどのスタンダードナンバーを作り出した、まさに父を失って今後ブルーグラスはどうなっていくのか？という思いが頭を交錯した。それでも多くのブルーグラッサー達が自らの世界を展開していくだろうが、彼ほどの名曲を数多く生み出す人は出てこないだろうと思った。つづく